

施策体系（案）についての提出意見

意 見										
1	<p>以前の計画に比べて、階層が整理されたのですっきりした感じになったと思います。その中で、「第6章 協働によるまちづくり」という章立てが残るのは、少々違和感がします。これからのまちづくりに協働は大前提とを感じるからです。ただし、現在のまちづくりが、まだまだ行政主導で、市民は行政からの指示を待っているという状況にあると判断するならば、その限りではなく、非常に重要な章ともなり、またこれを担当する部署の設置が必要なのかもしれません。市民・行政双方に、まだ市民活動＝ボランティアというような認識があるのであれば、「桐生市に住むすべての市民が、職業活動、生活活動を含めて行政と協働してゆくことを前提に計画を作ること」を基本的に宣言することが良いのではないのでしょうか。</p>									
2	<p>追加（案）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">章</th> <th>項</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6" style="text-align: center; vertical-align: middle;">自然環境保全</td> <td>1. 森林保全</td> </tr> <tr> <td>2. 水源保全</td> </tr> <tr> <td>3. 河川の整備 ←（生活環境の章からの移動）</td> </tr> <tr> <td>4. 湖沼の保全</td> </tr> <tr> <td>5. 自然公園の整備 ←（川内の野鳥と昆虫の森）</td> </tr> <tr> <td>6. 湿原の保全</td> </tr> </tbody> </table>	章	項	自然環境保全	1. 森林保全	2. 水源保全	3. 河川の整備 ←（生活環境の章からの移動）	4. 湖沼の保全	5. 自然公園の整備 ←（川内の野鳥と昆虫の森）	6. 湿原の保全
章	項									
自然環境保全	1. 森林保全									
	2. 水源保全									
	3. 河川の整備 ←（生活環境の章からの移動）									
	4. 湖沼の保全									
	5. 自然公園の整備 ←（川内の野鳥と昆虫の森）									
	6. 湿原の保全									

意見

1. 体系について

- ・ 審議会において、現行の新生総合計画の「森林都市と水源都市の実現」の次期総合計画における扱いの意見の件。
- ・ 次期総合計画の第3章「生活環境の整備」内に位置するので問題ないと思う。
- ・ ただし、委員内の意見を踏まえ、「森林都市と水源都市の実現」の唯一となる節「人と自然の共生」をまちづくりの基本テーマ（理念）「ひとと自然との共生」として提案したい。個別の施策の中に位置づけるより、施策全体の理念として掲げるほうがより適したものになると考えた。

2. 施策に関する意見

- ・ 庁内で「『産学官連携の推進』は施策というより手段ではないか」との意見があったとのことだが、同感である。ただし、産学官連携推進は、新たな時代に沿った産業振興をどう推進していくか、との視点で施策立案されたもののよう考えられる。そこで、

3 「次世代産業（あるいは技術）の育成支援」といった項立てにし、その手段を「産学官連携の推進」にしたらどうだろうか。

- ・ 同様に庁内議論で「桐生を好きな子供の育成」についても、教育分野全般に係るものではないかとの意見があったとのことだが、確かにその通りだと思う。ただし、これは非常に大事な概念であるため、第4章全体の基本方針に掲げ、全般に係るものとするのはどうだろうか。
- ・ 他県のまちのひとに未来創生塾や少年少女発明クラブの話をするとうらやましがられる。他市では、このような取り組みは個人ではなかなか見つけられないし、あっても相応のお金を個人で負担しなければならない。桐生の優れた子育て支援活動だと感じている。残念なのはアンケートでみると市民が桐生市の子育て支援をはじめ、地域の良さにあまり気づいていないことである。
- ・ 第6章の「協働によるまちづくり」に、「シビックプライドの醸成」を掲げるのはどうだろうか。